

令和5年度 第4回 北浜南小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年 2月6日（火） 14時30分から16時まで
- 2 開催場所 北浜南小学校 3階会議室
- 3 出席委員 森田 正幸、波多 信広、島尾 智砂子、森高 麻衣、鈴木 正紘
- 4 欠席委員 永瀧 利佳、永井 敦史
- 5 オブザーバー 鈴木 雄介（北浜南部協働センター）
- 6 学 校 鈴木 健（校長）、中谷 佳主枝（教頭）、白鳥 直樹（教務）  
無州 潤（CS担当）、鈴木 利江子（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 協議事項
  - （1）議長の選出について
  - （2）学校評価について
  - （3）いじめ防止等のための基本的な方針について
  - （4）学校運営協議会自己評価について
  - （5）来年度の経営方針について
- 9 会議録作成者 CSディレクター 鈴木 利江子

10 会議記録

司会の教頭から、委員総数7人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）議長の選出について

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、会長から副会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

（2）学校評価について

議長の指示により白鳥教務から別紙資料（学校だより特別号①、②）に基づき学校評価について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 図書委員会が企画したイベントやスマイルアッププロジェクトとはどんなイベントなのか。延期したができたのか。 （波多委員）
- ・ 図書委員会のイベントは物語を読みがちなので、いろいろな種類の本を読んでもらいたいということで0から9まで種類別に分類した本の番号が書かれている用紙を子供たちに配り読んだ本を図書室へ持っていくと種類番号のところスタンプを押してもらえスタンプを集めるとシールがもらえるというイベント。本当は2学期にやる予定がインフルエンザで延期になり3学期にできた。スマイルアッププロジェクトは前年度からやり始めた。朝のあいさつを笑顔で行おうということで、運営委員会が上手にあいさつできた子にたすきをあげたりハイタッチをしたりアーチをつくったりしている。あいさつだけではなく笑

顔になるための工夫を子供たち発信でやっていることがすごい。多くの子が足をとめてやる側になって一緒にやっている。(白鳥教務)

- ・ あいさつができれば自然と笑顔になる。笑顔になれば心が豊かになる。やはり、きれいな言葉、やさしい言葉がけも含めうまく自分をコントロールできるような子供、最終的には自己判断力ができる子になってほしい。(森田委員)
- ・ アンケートをとった数字以上に問題なく子供たちを先生方が見てくださっている。これからもデータをとりながら子供たちの様子をみていければと思う。(波多委員)

### (3) いじめ防止等のための基本的な方針について

議長の指示により鈴木校長よりスライドに基づき、いじめ防止等のための基本方針について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 軽度ないじめと重度ないじめの線引きを教えてほしい。(波多委員)
- ・ 今はいじめに対する考え方が全然ちがう。昔は一人対大勢がいじめ。今は一対一でもいじめ。本人や保護者がいじめだと思ったらいじめ。今の子供たちはけんかをしないためお互いの感情のすれ違いがあったりする。本人が重度だと思えば重度ということにとらえ対応している。(鈴木校長)
- ・ いじめのなかで学校はどこまで関与しているのか。たとえば下校後遊んでいる時やクラブチームでのトラブル等。(鈴木委員)
- ・ 学校外で起きたこと、インターネットに関しても基本は学校でかかえる。他校の生徒とのトラブルも学校同士で連携をとり対応している。(鈴木校長)
- ・ 今の子供は乱暴な言葉に免疫がない。言葉が強くてすごくいい面をもっている言葉もある。言われた子が嫌だと言えはいじめになってしまうのか。(島尾委員)
- ・ 本人が嫌だと言えはいじめとして対応している。(鈴木校長)
- ・ 言葉が強い子には優しいあつたか言葉みたいな指導をするのと同時に、たくましく生きていくことも教えていかないといけない。心が折れてもしなやかに立ち上がる強さがほしい。(島尾委員)
- ・ 学校と保護者の意思の疎通が大事。(鈴木校長)
- ・ たくましく生きるためには嫌なこと、いいことを自分の中で消化できる能力を身につけさせる。わがままをいうけどそれだけでは生きていけない。将来的に生きやすくするためには経験が一番大事。経験があつていろいろ判断をし、自己を完成していく。地域の子供たちに体験、経験そして将来生きていくヒントとなるようなことを紹介できればと思っている。(森田委員)
- ・ 問題にいきつく前の人間形成を指針から学校がやってくださっている。これからも対策をしっかりとっていかなければいけない。学校、保護者、地域が協力し、いい方向に向かっていければと思う。(波多委員)

### (4) 学校運営協議会自己評価について

議長の指示により、各自別紙評価項目1～4を読み、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 子供たちのリアルな生活をみせてもらうことがとてもよかった。力不足のところもあつた

が地域の方と一緒に活動できてうれしかった。(森高委員)

- ・ 熟議が年々深みを増している。コロナで計画までしかできなかったことが、今年度はできたので反省を生かしつつ今後もできればと思っている。(島尾委員)
- ・ これまではCSをあまり認識していなかった。地域とうまく連携してやっていることを参加して改めて分かった。学校のほうも地域の声を受け入れて改善し、いい方向でやっている。とてもいい取り組み。いい組織だと感じた。(鈴木委員)
- ・ 情報発進についてCS自体が認知されていないところがある。CSを分かってくださいというよりは北浜南小があり、そこにCS・PTA・地域が連携しているしくみがあり、子供たちが見守られているということをお子にも大人にも認知されていけば学校や地域の行事、いろいろなことがスムーズにうまくいくのではないかとと思っている。(波多委員)
- ・ CSのメンバーとなりどんなふう先生方は子供たちを育てているのかいろいろな面で情報を得られた。地域の人たちと話すなかで得られた体験をCSで話すことができ、子供たちにより影響をあたえられる。子供たちがよりよい環境の中で育っていくことが大切。小学校で得た体験を中学校さらに社会で生かせるよう子供たちに還元できればいいと思う。反省することも大事。次年度に生かし向上していけるようがんばっていききたい。(森田委員)
- ・ CSをはじめて知り勉強させてもらった一年。コロナが明けていろいろな活動ができてよかった。今後はコロナとうまく付き合っていくことが課題。(オブザーバー)
- ・ 2年生が今年一年でできるようになったことを振り返る授業でソフトボール投げをあげた子供が多数いた。CSの活動として先生以外の方々に詳しくわかりやすい指導をしていた子供たちにとっても影響をあたえてより楽しく真剣に学んでいたととても強く感じた。コロナもあり今後どうなるかは分からないが子供たちにとってとてもいい活動だと思う。(無州CS担当)
- ・ 今まで北浜南小はボランティアが集まりやすかったがここ何年かで集まりにくくなっている。12月のCD研修で出た案で、入学式にチラシを配り認知してもらいそのを広げていってもいいのではと思うがあまりやりすぎても負担が大きくなり、この形が北浜南小にあっているのか分からない。(島尾委員)
- ・ 年度はじめにボランティアの通知は出している。(中谷教頭)
- ・ 入学説明会でも新1年生の保護者に声掛けしている。今20名ほどいるが忙しいのでなかなか参加できない状況。
- ・ 新1年生だけでなく在校生や地域の人にも募集を広げていいものか。(島尾委員)
- ・ 北浜南小のスタイルはもう少しマイルドなのでどうなのかと思っている。(森高委員)
- ・ 給食指導も何人かきてくださり、下校指導も声をかけてくださっている。(中谷教頭)
- ・ PTAにもボランティア部がある。(白鳥教務)
- ・ 北浜南小の保護者の方はみなさん協力的。(森田委員)
- ・ なかなか人が集まらないのであればCSもからんでやっていけばより広く発信できるので、その連携の仕方を考えていけばいいのではないかと。(鈴木校長)
- ・ 昔のあそびの指導者を求めるとき、中条については老人会の会長さんをお願いして集めてもらった。(森田委員)

- ・ CS・PTA・子供会・育成会等点々としていて線で結ばれていない。それをまとめるのはCSではないかと思っている。各団体の長が集まれば効率がいいのではないか。いずれCSが目指すところはそのところではないかと思っている。来年度中には各自治会から選出された人を一人CSに選んでもらえればと思う。(波多委員)
- ・ まずは地域の自治会の方を入れるということを実現したいと思っている。(鈴木校長)
- ・ さくら連絡網に登録すれば発信はできる。長い目で考えたとき、ずっと続けられるかたちが大切。(中谷教頭)
- ・ コロナでリセットされ、進まないことも多く子供たちのために楽しく簡単にできるシステムをつくれればいいと思う。(波多委員)
- ・ 負担に感じず楽しめることが大事。(森田委員)
- ・ 今年度はいろいろなことが再開され充実していた。学校としては今年度やってきたことをさらに充実させ軌道にのせる。活動自体は今年度のものと一緒にいいのではと思っている。ただ、それに対する協力者の募集の仕方や新しい委員さんの件を来年度は変えていけばいいのではないかと思う。(鈴木校長)

#### (5) 来年度の経営方針について

議長の指示により鈴木校長より別紙資料とスライドに基づき来年度の経営方針について説明があり、委員からは、以下の発言があった。来年度の経営方針については、承認が得られた。

- ・ 北浜南小の発達支援学級は知的学級だが来年度についてはどんな感じなのか。(森田委員)
- ・ 今のところはすぐに情緒学級ができる方向で話は進んでいない。しかしさらに充実というところで新たにできる可能性もある。やはり地域の子供が地域の学校に通えるということがとても大事。子供にとっても保護者にとってもうれしいことなのであきらめずをお願いを重ねていく。(鈴木校長)

#### その他報告事項等